

2018年度 常任委員会調査研究の経過報告①

【総務産業建設常任委員会：下平委員長・昼神副委員長・後藤(章)委員・後藤(壽)委員・東原委員・小池委員】

2019. 5. 30現在

	調査研究テーマ	研究項目	調査研究の実施経過・結果と今後の課題		
			委員会協議・視察・研修会等	成果・提言活動	今後の取組や課題
調査研究	バイオマス発電所誘致建設について	他地区の事業調査と、住民意識調査	栃木県那珂川バイオマス発電所 視察 住民意識調査（随時）	農振除外申請不認可により事業化にならず。	次世代に向け自然エネルギー利用の当村への導入の調査研究は今後も必要と考える。
	堰下ガイドウェイ制作保管ヤード跡地利用に関することについて	調査研究	栃木県ろまんちっく村視察（18' 2.19） 愛知県JAあぐりタウンげんきの郷視察 （19' 5.20）	今後、大きな事業を進めていかなければならない中で見聞を広げられることが出来た。	それぞれの特徴、コンセプトを見聞する中で、当地域に適した場所作りにつなぐことが大切と考える。
		コンセプト、縮図の作成	コンセプトの抽出 縮図の作成	一つのイメージ図の作成が出来た。	今後は住民の意識調査をはじめ、一つ一つの事業の調査、落とし込みが必要となる。
		広域連合から出される新事業（コンベンション、アリーナ）構想について			今後も情報を共有する中で事業展開に注視し、当村との関わりの是非を判断していく。
	農業振興施策に関することについて	農業公園視察	栃木県ろまんちっく村視察（18' 2.19） 三重県モクモク手作りファーム視察 （19' 5.20）	当村の農業施策の課題解決に向け、目指すべき姿を見いだすきっかけにはなった。	今後も優良事業の見聞を広め、当村の進むべき姿を早期に描いていくことが大切である。
		伊久間原農業振興施策に関する調査	農業委員会との合同協議（18' 7.23） JAみなみ信州喬木支所との合同協議 （18' 5.30）	伊久間原農地を一つの縮図として課題を共有し、将来の目指す姿を描いた。	伊久間原に限らず、全村に亘る課題解決に向けた糸口が切り出せることが重要と考える。

2018年度 常任委員会調査研究の経過報告②

【総務産業建設常任委員会：下平委員長・昼神副委員長・後藤(章)委員・後藤(壽)委員・東原委員・小池委員】

2019. 5. 30現在

	調査研究テーマ	研究項目	調査研究の実施経過・結果と今後の課題		
			委員会協議・視察・研修会等	成果・提言活動	今後の取組や課題
調査研究	農業振興施策に関することについて	農振除外及び農地転用に係ることについて	講習会(19' 2.19)	村の担当課を講師に、学習会を開催。村の課題も含め事例を踏まえて理解を深めることが出来た。	遊休農地を含め、土地利用の課題など山積である。課題解決に向け更なる情報収集に努めたい。
提言活動	三遠南信自動車道の建設及び地方道を含む交通ネットワークの強化を求めることについて		国交省に対し提言書を提出	三遠南信自動車道飯橋道路第3工区の工事が進められている中、当村としての意思表示は伝わっているものと思われる。	村として要望している多くの件において、事業化に向けて引き続き要望活動を行っていく。
	上飯田線(小川～氏乗間)改良促進に関することについて		県に対し、北部地区の提言もあわせて提言書を提出	県会において2年連続で、採択を得るも、県の道路整備計画に載せられるまでに至っていない。北部地区、上伊那地区からも改良促進について申し出を頂いている。	上飯田線の全構図とあわせ、氏乗～上平間のトンネルによるバイパス化に向けて詳細な構図作成の必要がある。
	阿島橋新規架橋建設に関することについて				現橋の複線化もしくは新規架橋建設に向け、リニア長野県駅直近の橋として、引き続き要望活動を行っていく。
	小川渡橋の早期掛替えに関することについて		県に対し、提言書を提出		住民不安解消の為にも事業化に向けて引き続き要望していく
	富田バイパスの早期着工に関することについて		飯田国道事務所、飯田建設事務所を通じ事業の推進を提言	用地交渉も解決し事業が進捗した。	工事の進捗を引き続き注視していく

2018年度 常任委員会調査研究の経過報告③

【総務産業建設常任委員会：下平委員長・昼神副委員長・後藤(章)委員・後藤(壽)委員・東原委員・小池委員】

2019. 5. 30現在

	調査研究テーマ	研究項目	調査研究の実施経過・結果と今後の課題		
			委員会協議・視察・研修会等	成果・提言活動	今後の取組や課題
提言活動	飯田上久堅・喬木富田インターから富田バイパスまでの道路改良に関する ことについて		県に対し、提言書を提出		富田バイパスの延伸については、飯田市とも共有が大切な事業。事業化に向け引き続き要望活動を行う。
	南信州振興局管内に運転免許センターの設置を 求めることについて		県に対し、北部地区を通じ提言書を提出	多方面からの働きかけにより少しずつ前に進んでいる。	事業化に向け引き続き要望活動を続ける。
現地調査	基幹林道災害現地調査	現場確認	執行部より報告を受けた件について全議員で現地確認（18' 10.2）	豪雨災害による現地を確認。被害の大きさを確認。	大島～氏乗間の全通に向け引き続き注視していく
	辺地対策総合整備事業について	上の原辺地、村道52号線改良事業について	現地確認（19' 3）	崩落危険箇所を確認。	通学路に面しており危険な箇所である。上部に太陽光発電パネルも設置されたことから雨水処理など注視する必要がある
	辺地対策総合整備事業について	氏乗辺地、二日洞取水場堰堤移設事業について	現地確認（19' 3）	三遠南信自動車工事に伴い、二日洞取水場の水質変異の恐れから移設に向けた調査を進めている。	当村の生活用水として重要な箇所であるので、今後も注視していく必要がある。

総務産業建設常任委員会調査研究報告書兼引継書

【下平常任委員長】

調査研究テーマ	堰下ガイドウェイ制作保管ヤード跡地利用に関することについて
課題背景	リニア、三遠南信自動車道の開通にむけて粛々と事業が進められている中で、当村において多くの課題が山積しているが、8年後にJRより返還される堰下ガイドウェイ制作保管ヤードの跡地利用については現在白紙の状態である。当該地域は、当村の産業はもとより、住民の拠り所として重要な場所となる。当委員会としても、将来に亘りより得策となる事業を遂行する必要性を感じており、調査研究することとした。
これまでの取組	<p>基本的な事業の抽出の考え方として、街作りを想定し、4つの基本となるコンセプトを設定した。</p> <p>「交流の拠点」、「発信」、「研究機関誘致(地域産業との関連付け)」、「機能配置」以上4つに区分けし、これら総合的見地から街作りを想像していくことを考えた。</p> <p>交流: 人と人、産業と人、文化と人、自然と人。発信: アルプスの玄関口、伝統芸能、食文化、農産物、6次産業。研究機関誘致: 農業、工業、医療、学術、地域作り。機能配置: 農村交流研修センターの機能移転、商工会、エスバードの分室、コワーキングスペース、貸事務所、コンベンション機能。等が上げられた。</p>
調査研究の成果	基本コンセプトを基に、一つのイメージ図を作成することが出来た。
今後の取組	一つ一つの事業を、実際の縮図として興し、住民からの意見収集につなげたい。
今後の課題	事業化に向けた取り組みとして、実際に誰がどの様に取り組むのか。事業規模はどのくらいの規模なのか。公的機関で行うのか。民間で行うのか。全てが難しい選択を迫られることが想定される。しかしながら、まずは絵を描いてみないと始まらないと考える。

総務産業建設常任委員会調査研究報告書兼引継書

【下平常任委員長】

調査研究テーマ	農業振興施策に関することについて
課題背景	<p>当村における農業振興における課題は、他の行政区と同様に、農地の荒廃、後継者不足、担い手不足、農地法の洗礼の縛りからくる土地利用の弊害など様々な課題が山積している。課題解決に向けては、様々な見地から、一つずつ解決していかなければならない。そこで、当委員会としては、先進地事例も踏まえて、新たな事業創出につなげられないか調査研究することとした。</p>
これまでの取組	<p>1.農業公園視察 視察先: 栃木県ろまんちっく村(18'2) 三重県モクモク手作りファーム(19'5)</p> <p>2. 伊久間原土地利用に関する勉強会(農業委員会、JA) 伊久間原をモデルとして全村の農地利用の課題抽出を行った</p> <p>3.農振除外及び農地転用に関する学習会 産業振興課を講師に理解を深めた</p>
調査研究の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・先進地視察により、知見を深めることが出来た。 ・農業委員会、JAとの意見交換により情勢把握が出来た。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・全村農業公園化構想を想定し、今後の農業振興に提案したい。 ・当村の特異性を生かした施策に繋げていきたい。 ・国のモデル事業との連携模索。
今後の課題	<p>遊休農地対策や、農地利用が今後の大きな課題。担い手が減少していくことが想定される中で、担い手の確保と土地利用の方針が今後を左右するものと考えられる。</p>

2018年度 常任委員会調査研究の経過報告

社会文教常任委員会： 中森委員長・ 副委員長・ 委員・ 委員・ 委員・ 委員 2019. 5. 30現在

調査研究テーマ	研究項目	調査研究の実施経過・結果と今後の課題		
		委員会協議・視察・研修会等	成果・提言活動	今後の取組や課題
統合保育所建設問題	保育所あり方検討委員会の答申について説明を受け、今後議会としての立場、各議員の考えを深めるための研究学習。 保育所新規建設の方針が決定した場合の設備や新たな教育保育の先進的な取り組みを学習して議会としての提案を行う。	委員会において教育委員会および検討委員会委員長より説明を受け自由討論協議及び学習を数回行った。 30年2月14日午前中、箕輪町沢保育園に視察あり方検討委員会参加議員は、名子中央松尾慈恵保育園の視察を行った。	沢保育園の建設に至る説明をうけ、それに掛った時間および取り組みを学習した 今後の統合保育園の建設にあたり、設計段階から保育教育まで幅広い範囲で蓄えた知識を活用し提言を行う	建設場所決定次第、委員会の意見を集約して村へ提言し また、将来を見越した建設に更なる学習を行うために、社分・総務産建有志議員で視察学習を行う。 尚保育士不足の課題について取り組んでいく
I C T教育の状況	3年間の文科省の実施期間終了後の状況把握と、新たな問題の研究	各議員が喬木村で実施された I C T研修会に参加し現状を把握した。教育委員会の説明を委員会で行った。	特に第二小学校に児童に大きな成果が見られた。 先生方にも受け入れられた	児童生徒のみならず、教師も習得し今後も継続して、第2小学校のみならず学力向上のための提言を行う。
国民健康保険の学習	国保の一元化による影響や今後国保加入者が少なくなる中で、健全な国保運営を行えるように学習する。 資産割を廃止する意味を認識し今後の国保運営に必要な基金についても認識を深める。	保険福祉課より数回国保の現状や今後の予測等の説明を委員会で行った。国保運営協議会所属議員は研修会に参加し、長野県の国保の現状を学んだ。	議員が国保の認識を持つ事ができて、今後の国保運営十分な意見が述べられる知識をつける事が出来た。	以前の基金取り崩しの反省点は、国保に対する認識不足があり、社分の委員は国保の仕組みを十分に理解し、国保運営協議会や村の決定に対しても自分の考えを述べられるように取り組む
保険者努力支援制度	国保特有のインセンティブのみならず、制度の詳細を把握し喬木村のポイントUPに向け研究学習する。	健康で長生きできるようにこの制度を理解し今後の村保健福祉の向上のために委員会での説明を行った。	北部での県への提言として商工会との連携など模索し提言したが、理解を得られなかった。	日々変わる制度やポイントについての学習を重ね、村の福祉向上に努める。

2018年度 常任委員会調査研究の経過報告

社会文教常任委員会： 中森委員長・ 副委員長・ 委員・ 委員・ 委員・ 委員 2019. 5. 30現在

	調査研究テーマ	研究項目	調査研究の実施経過・結果と今後の課題		
			委員会協議・視察・研修会等	成果・提言活動	今後の取組や課題
	社会福祉協議会の活動	社会福祉協議会の活動について提案できるように、先進地区の活動を学習した。 障害者福祉のあり方も学ぶ中で障害者雇用の問題への取り組みを学んだ。	委員会において30年2月15日に伊賀市社会福祉協議会の視察をお行った。訪問前にその取り組みについて事前学習を行い取り組んだ。 喬木社協村出向職員も同行をお願いした。 視察場所の取り組みは見習うべきものが多く今後今一度思い起こしながら学習して行く。	伊賀栗の活動等を通しそれまでの多くの苦労の中から現在に至った状況を聴き当村社協に対してもできることから提言して行くべきである。	社会福祉協議会の運営について見識を深め、村の高齢者が幸福な老後を健康維持しながら暮らせる社会をめざし課題に向かって取り組む。
	校務支援システム	教員が児童生徒と接する時間を多く取れるように、統合的校務支援システムを小中学校に導入するように、県・国へ提言する	今なぜ校務支援システムが必要かを、委員会において説明し、教育委員会も村の現状と導入予算がどの位になるか調査報告をお願いし国や県に提言した。	教育委員会と連携し提案したが、喬木村が実証校として先行導入される事となった。	さらにスクールサポートスタッフの導入など、児童生徒と先生の対話時間を増やして、いじめ等の対応に時間を費やせるよう取り組む

社会分教常任委員会調査研究報告書兼引継書

【社会文教常任委員長】

調査研究テーマ	保育所建設関連諸問題
課題背景	<p>今後予想される震災等災害から保育園児を守る</p> <p>喬木村人口減少に伴う出生人数の減少下での今後の保育の在り方</p> <p>通園時間帯の道路の渋滞解消及び保護者会等の駐車スペース確保</p> <p>保育士不足解消及び未満児等の安全な保育体制の拡充</p>
これまでの取組	<p>保育所あり方検討委員会での意見書・付帯意見書の内容把握</p> <p>新設保育園等の視察研修を通じた委員の学習</p> <p>村内保育園の抱える問題等教育委員会教育委員との懇談</p> <p>教育委員会による保護者等アンケート結果の報告</p> <p>今後の村の建設に向けたスケジュールの確認</p>
調査研究の成果	<p>委員一人一人が研修や報告を通じ、村に対して建設的な意見が述べられるレベルに達する事が出来、今後の提案提言につながる見識を身につけた。</p>
今後の取組	<p>さらに見識を深めるために先進的な設備及び保育に取り組む施設の見学を行い、教育委員会・保育士・保護者との連携を図り意見を聴きながら取り組む</p>
今後の課題	<p>地域住民の中の建設反対者に対して丁寧な説明も怠らない</p> <p>南保育園の建物維持修繕も心がけ特色ある保育が維持できるように取り組む</p> <p>上記課題については南部地区の保護者の意見を十分に聞く</p>

2018年度 常任委員会調査研究の経過報告

【予算決算常任委員会：木下温司委員長・佐藤文彦副委員長・議長を除く議員全員】

2019. 5. 30現在

	調査研究テーマ	研究項目	調査研究の実施経過・結果と今後の課題		
			委員会協議・視察・研修会等	成果・提言活動	今後の取組や課題
3	予算決算常任委員会	30年度予算・29年度補正予算 説明・質疑・討論・採決	3月7日（水）・8日（木）2日間説明・質疑 3月18日（日）一般質問終了後・討論・採決	全議案原案どおり可決	
6	予算決算常任委員会	30年度補正予算 説明・質疑・討論・採決	6月11日（月）夜7時より説明・質疑 6月16日（土）一般質問終了後・討論・採決	全議案原案道理可決	
9	予算決算常任委員会	29年度決算・30年度補正予算 説明・質疑・討論・採決	9月12日（水）13日（木）2日間説明・質疑 9月20日（木）午前9時より・討論・採決	全議案原案どおり可決	
12	予算決算常任委員会	30年度補正予算 説明・質疑・討論・採決	12月11日（火）夜7時より説明・質疑 12月17日（月）午後1時30分より・討論・採決	全議案原案どおり可決	

予算決算常任委員会調査研究報告書兼引継書

【木下温司常任委員長】

調査研究テーマ	企業会計について勉強会開催と事業評価シートの活用
課題背景	水道、下水道の会計方式が特別買収系から企業会計に移行するに当たり予算決算の状況把握を図るため、チェックのポイントについて勉強。決算時、事務事業評価シートの活用と、議員の目での評価の実施。
これまでの取組	これまで水道事業会計については勉強をしてきましたが、31年度からは新たに下水道が加わることになり、ったことにより、今年度決算後統一した会計方式にて提示される。一般会計等については、簡易な質問等事前の意見集約にて確認を行った。定例会終了後には、議事録を作成し議員に公開。
調査研究の成果	予算時一部増額動議等あったが、比較的問題なく承認することが出来た。
今後の取組	予算編成時においては、新たな事業の取組の確認。決算時においては、事業の評価と今後の課題について抽出。
今後の課題	予算策定時に、地域課題の予算編成が盛り込まれているか、行政との意見交換が必要。住民を交えた、予算査定の導入。決算時においては、PDCAサイクルが活かせるチェック体制の確立。

2018年度 常任委員会調査研究の経過報告

【広報広聴（広聴）委員会：木下温司委員長・佐藤文彦副委員長・下平 貢委員・中森高茂委員・東原靖雄委員・昼神二三男委員 】 2019. 5. 30現在

	調査研究テーマ	研究項目	調査研究の実施経過・結果と今後の課題		
			委員会協議・視察・研修会等	成果・提言活動	今後の取組や課題
	団体との懇談会	団体での課題と議会への要望	委員会に於いて年度の基本方針を決定		団体の幅を増やす方策
	地区懇談会	地域の課題と議会への要望	委員会に於いて年度の基本方針を決定		地域の重要課題について、 テーマを決め集中討議に切替える。

広報広聴委員会(広聴)調査研究報告書兼引継書

【木下温司広聴委員長】

調査研究テーマ	議会報告を通じ広く村民の意見を聞く機会を増やし、課題課帰結に努める
課題背景	平成29年度まで、団体、地区懇談会を交互に行ってきましたが、平成30年度から、原則として年度の前半に団体、後半に地区との懇談会を開催する事とし議会の日程、団体との日程調整を行いながら実施することとしました。できるだけ幅広い村民の意見を増やしていきたいとの考えから実施。
これまでの取組	団体との懇談会は平成29年度7団体、平成30年度8団体との懇談を実施。それぞれの団体が抱える課題等について意見交換を行いました。ただ、会議の内容によっては、各団体の現状報告を聞くだけとなり、具体的な課題解決には至りませんでした。出された課題については、議会内で協議し、解決へ向け行政との調整を図って来ました。
調査研究の成果	団体との懇談会においては、団体の抱える課題についての意見聴衆地域においては、地域の抱える課題についての意見聴衆を行い議会として今後の対応を行ううえで、情報の共有が計れた。
今後の取組	団体の構成状況により、個々の団体の現状報告のみに終始し、今後への展望を踏まえた意見交換ができなかったため、今後はテーマを決め、ワールドカフェ方式(ワークショップ)にてグループ討議を行い、意見の出しやすい方法に切り替える。
今後の課題	団体との懇談会においては、団体のすそ野を広げる対策が必要。地区懇談会においては、高齢化社会に対する地域での課題について、高速交通網時代に向けた、地域づくりについての具体的な行動について、意見交換を行う。

2018年度 広報委員会調査研究の経過報告

【広報委員会： 委員長・小池 豊 副委員長・後藤 章人 委員・後藤 澄壽 委員・櫻井 登 委員・福澤 真理子】 2019. 5. 30現在

	調査研究テーマ	研究項目	調査研究の実施経過・結果と今後の課題		
			委員会協議・視察・研修会等	成果・提言活動	今後の取組や課題
1	議会だより	記事の掲載 レイアウト	他の議会だより参考。研修等 全員にて検討する。	親しみやすい記事に	アンケート参考に
2	広報委員会視察研修	専門機関にての研修	地元の専門機関紙にて、記事編集について ルール・マナーの研修 表現方法の統一	写真の注意	可能な限り人を入れる 斜めから撮ると奥行が伝わる
3	モニター懇談会		懇談会開催回数等 一般質問対応	1回では少ない。2回程度に	一般質問後の対応をしていく。

広報委員会調査研究報告書兼引継書

【小池広報委員長】

調査研究テーマ	議会だより編集
課題背景	<ul style="list-style-type: none"> ・読んで頂きやすい議会だより編集
これまでの取組	<ul style="list-style-type: none"> ・マナーの研修議会モニターアンケート参考にした検討 ・地域の報道機関の視察研修による検討 ・議員全員協議会による意見の取り組み ・分かりにくい文書、ことばの掲載には注意する
調査研究の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすいことばの使用。専門用語には註釈を入れる。 ・紙面構成上、写真の組入れが多くなった。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・村民に読んでいただける記事の編集取り組み。 ・モニターアンケートを、参考検討しながらの編集に。 ・定例会報告は、わかりやすい記事、数字の羅列等注意する。 ・議員の紹介、活動の様子の記事等掲載していく。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の編集にとらわれない ・発行ページ数にとらわれず編集する。 ・発行回数(特別号)の検討 ・村の情報誌とダブルナイ記事編集に注意